



とても、いい作品でした。

登場するひとりひとりの表情がとてもいい。まさしく「しあわせのかたち」をそれぞれに生きる生き生きとした表情。なかなか撮れるものではありません。

映像を作るのに一番大切なことは「丁寧」ということかな…と最近思います。そう、「丁寧」な作品です。

伊勢真一（ドキュメンタリー映画監督・『奈緒ちゃん』『風のかたち』）

涙の日々から顔を上げた人たちは、みんないい顔をしていた。

不妊治療は最先端医療が注目されがちだが、人を何よりも助けるのは人だと思った。

河合蘭（『卵子老化の真実』著者・出産ジャーナリスト）

喜びや苦しみが織りなすファミリー・ヒストリー。
それぞれに語り継ぐ七色の幸せのかたち。

映像の中に、またひとつ、幸せをみつけた。

荒木晃子（心理カウンセラー・家族社会学研究者）

不妊で悩む方、それを支える人の思い、
さまざまな生き方の選択。

それぞれを丁寧に映し出した映像に、惹かれました。

星野寛美（特定非営利活動法人環の会理事・産婦人科医）

映画「幸せのかたち 改訂版」（2013年／ドキュメンタリー／カラー 93分／製作カタリベフィルム）

今作の監督、茂木薫は2009年8月、不妊治療の末に人工授精で授かった赤ちゃんが子宮外妊娠とわかり、緊急手術。やっと授かった我が子を失ってしまう。精神的に落ち込む中、亡き祖母も同じく不妊だったという事実を知る。

長年の不妊治療の末に夫婦2人の生活を選んだ人。

不妊当事者のためのNPOを立ち上げて1人でも多くの笑顔を増やそうとしている人。

養子縁組の道を選択した人。

8年間の不妊治療で子どもを授かった夫婦。

それぞれの「命」「家族」「人生」に触れながら、様々な幸せの形を探し「幸せ」とはなんなのか、を問い直していくドキュメンタリー。



【監督・茂木薫プロフィール】

1978年 埼玉県行田市生まれ。武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業。

民俗文化に興味を持ち、人々の生きる姿の中に文化を見だし、人々の日常へとカメラを向けドキュメンタリーを中心とした映像作品の制作を始める。2010年2月、ワーナー・マイカル・シネマズ羽生にて「梅むら夫婦」で劇場デビュー。

現在、長女と双子3人の子育て奮闘中。



【トークゲスト・赤星ポテ子プロフィール】

武蔵野美術大学デザイン情報学科卒業。

不妊治療を機にフリーランスのイラストレーターに。

コミックエッセイを中心にTV-CMなど幅広く活動。

現在、イヤイヤ期真っ最中の息子に振り回されながらも、ゆる〜く2人目妊活中。

著書に「ベビ待ちバイブル」「マンガ解説よくわかる！妊娠と出産」がある。